

# 1 問題解決的な学習の基本過程

**思考を活性化し真剣に課題に立ち向かう学びを問題解決的な学習で！**

中教審教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」において、「どのように学ぶか」が取り上げられました。そして「主体的・対話的で深い学び」実現へ向け、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面を設定することが重要であると述べられています。

「課題を解決したい」「もっとできるようになりたい」・・・と意欲をもちながら学習に取り組む子どもは能動的で、自分のもてる力を駆使して、友達と知恵を出し合い、課題を解決する過程で、さらに力を身に付け、時にはそれまで以上の力を発揮します。このような学びの姿を問題解決的な学習を通して子どもたちに実現していきましょう。

## ◇ 問題解決的な学習のよさ

- ◆ 学ぶことの楽しさや達成感を体得し、主体的に学習する態度が養われます。
- ◆ 問題を解決する方法等を学び、他の場面にも活用することができるようになります。
- ◆ 自分で考え調べ獲得した知識や技能は確実に身に付きます。
- ◆ みんなで協力したり、グループで活動したりすることにより人間関係が深まります。

## ◇ 問題解決的な学習のプロセス

問題解決の過程を取り入れ、次の5つの段階を基に授業づくりを進めてみましょう。

- 1 課題把握をする
- 2 見通しをもつ
- 3 自力解決を進める
- 4 思考の共有と吟味をする
- 5 振り返る活動を行う



段階	問題解決的な学習の仕方	子どもの見方・考え方の例	関連
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たなことに出会いそれまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。</li> </ul>	「ここから先は、どうなるのかな」 「～と～が違うのはどうしてだろう」 「～になるのはきっと理由があるはずだ」 「～といういきまりがありそうだぞ」 「できる、できる、あれ？今までと違うぞ」 「～しないで問題を解くなんて、できるのかなあ」	P.9 P.10
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項や生活経験を基に見通す。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決の方法を見通す。</li> <li>・ 答えの見当をつける。</li> <li>・ 調べる視点をもつ。</li> <li>・ 学習活動の筋道をもつ。</li> </ul> </li> </ul>	「～の方法でやれば、できるかもしれない」 「答えは～となるはずだ、確かめてみよう」 「～のように調べれば、何か決まりがみつかるかも」 「きっと～じゃないかなあ」 「このあたりから調べると分かるんじゃないかなあ」 「前に～と考えてできたから、同じように～してみよう」 「わたしだったら～する」	P.9
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。</li> <li>・ 自分の考えをもつ。</li> <li>・ 試しにやってみる。</li> <li>・ うまくいかないと修正する。</li> <li>・ 分かったところと分からないところを整理する。</li> </ul> </li> </ul>	「使えそうな資料はないかな」 「教科書をよく読んで、大事なところに線を引いてみよう」 「言葉の意味を辞書で調べてみよう」 「前にやったことをノートで見てみよう」 「まず、こうやってみよう」 「図や表に表してみよう」 「説明できるように、言葉に表してみよう」 「ここまでではできたけど、ここから先がわからない」 「できた！他のやり方でもできるかな？やってみよう」	P.11 P.12
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題解決に向けて話し合い、思考を共有する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の考えをよく聞く。</li> <li>・ 自分と違う考えを理解する。</li> <li>・ 解決方法の内容を理解する。</li> </ul> </li> <li>○ 思考を吟味する中で課題解決する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。</li> <li>・ 規則性を見付ける。</li> <li>・ 自分の考えを見直して再構築する。</li> <li>・ より分かりやすい表現にする。</li> </ul> </li> </ul>	「○○さんの考えとぼくの考えは同じだ」 「△△さんの意見は、～が同じで、～が違う。なぜだ？」 「□□さんに続けて言うと～ということになります」 「こういう考えもあるんだな」 「それはどういうことですか？」 「そういう意味か」 「こういう理由だったのか」 「～と～は、ここでつながっているのか」 「～をずっと見ていくと～といういきまりがある」 「なるほど、～は～ということか」 「～は、～と表すともっと分かりやすいと思う」	P.13 P.14
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。</li> <li>・ 分かったことを広げて考える。</li> <li>・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。</li> </ul> </li> <li>○ 次時への意欲付けを行う。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決されていないことを明らかにし、次時の学習の見通しをもつ。</li> </ul> </li> </ul>	「あの言葉とこの言葉をつなげて、まとめてみよう」 「話したことをかいてみよう」 「今日分かったことは、～にもつながっているね」 「さっきの考え方を生かして問題をやってみよう」 「ねえ、どうしてこうなるの？」 「あれ、これはできないぞ。次の時間に考えてみよう」 「ここまででは分かったけど、ここからどうなるのかな」	P.15 P.16

※ 授業によっては適用をまとめの前にも行うこともあります。